

2024年3月5日(火)八代会場 午後

公述内容(メモ起こし)

土森 武友

アセスと言っているが、環境影響評価法には基づいていない。勝手にやっているアセスで、御用学者が環境に影響はないと言っている、お墨付きを与えるだけのもの。環境省の法律に基づかず、国交省のダブルスタンダード。

熊日社説に流域住民はダムを望んでいるだろうとあったが、誤りである。流域住民でダムを望む声は聞かない。流域のほとんどの人はダムを望んでいない。松岡市長に申入れに行ったが、ダム賛成する人はいないと言った。

アセスは、手続きが進んでいると想わせるだけのパフォーマンス。許してはならない。意見を聞くと言っても形だけ。ダム計画に意見が反映させることはない。

ダムで水がきれいになる、生き物が増える例は聞いたことがない。ダムができる度に環境が悪くなる。穴あきだから安心、環境を守るということはない。

穴あきダムで清流が守れるなら、川辺川上流の県営の穴あきダムである樅木ダム、朴の木ダムの濁水を止めて清流を流せるとテストしてほしい。

住民説明会があり五木と相良に行ったが、国交省は高さ 20cm のダム模型を作って緊急放流を見せた。模型は騙し。実際は 20cm ではなく 100mあり 500 倍。容積的には 12 万 5000 立米の水が 100mの高さから落ちるので、水圧があり、ものすごい破壊力がある。生き物は死んでしまう。まったくのデタラメ

模型実験は問題点を洗い出すためのもので、模型実験で問題ないからと実際に起きないわけではない、と宮本博司さんも言っていた

説明会で、アユが遡上するというが 100 匹いたら何%遡上するのかと聞いたが、回答なし。1 匹でも遡上すれば、国はアユは遡上したという。こんなデタラメは許せない。

島根県の益田川ダムでは完成後にアユが減ったと報告がある。流水型ダムは環境に悪影響がある

以上